

鎌ヶ谷市施策評価表(事後)

施策の名称	112いきいきとした高齢社会の形成		
施策のねらい(めざす姿)	高齢者が生きがいもち、その人らしく暮らしています。		
基本目標	1「健康で生きがいのある福祉・学習都市」をめざして	施策担当マネージャー	健康福祉部次長
政策	11誰もが健康に暮らせる生涯福祉社会をつくります	マネージャー氏名	菅井 智美

I 改革・改善内容(=施策をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	高齢化に伴い対象者の増加が見込まれるが、介護予防や給付の適正化を推進し、給付費の適正な給付に努める必要がある。	③改革・改善内容	誰もが住み慣れた地域で安心して生活し続けられる地域社会の実現のために必要となる自助、互助、共助、公助の組み合わせから成る「地域包括ケアシステム」の構築が必要である。
②①に基づく取り組み結果	介護予防事業の普及・啓発、適正な要介護認定審査、給付の適正化に努めた。		

II 施策の目的・概要

①目的	対象	概ね65歳以上の高齢者	意図(対象をどうするのか)	住み慣れた地域で、生きがいを持ち、その人らしく暮らし続けるようにする。
②施策の概要	高齢者の生きがいづくりのための拠点整備、社会参加機会の拡大に努めるとともに、地域包括支援センターを中心とする地域包括ケアシステムの構築をめざすものである。			
③環境分析(状況変化や今後の見込み・市民意向など)	高齢化率は増加の一途をたどり、要介護認定率の高い後期高齢者は、団塊の世代が75歳となる2025年には2万人(H29.4.1現在13,110人)を超える見込みである。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27～28年度の施策の成果	要介護・要支援高齢者に対する適正な支援、認知症サポーター養成講座等の認知症対策の充実、生きがいづくり拠点としての社会福祉センターや老人憩いの家の拡充、社会参加の機会促進のため老人クラブ増加や加入促進に努めた。						
②施策成果指標	指標名称		単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	目標値(32年度)
	i	65歳以上要介護認定率	%	13.7	13.7	13.7	15.5
	ii	趣味や習い事などを行っている高齢者の割合(高齢者アンケート)	%	—	—	73.2	増加
	iii						
③基本事業成果指標	i	「健康である」と答えた高齢者割合(高齢者アンケート)	%	—	—	67.5	増加
	ii	シルバー人材センター会員数	人	460	481	484	700
	iii	特定高齢者介護予防事業参加者数	人	111	95	69	増加
	iv	地域密着型サービス定員総数	人	108	108	342	120
	v	地域包括支援センター整備数	箇所	3	3	3	3
	vi	認知症サポーター養成講座受講者数	人	3,998	4,878	6,590	5,000
	vii						
	viii						
	ix						
④施策の事業費	平成27年度決算	平成28年度決算	市民一人あたり事業費(28年度決算)		平成29年度予算		
事業費(千円)	7,335,088	7,463,355	(単位:円) 68,362 円		7,486,739		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	高齢化の進展に伴い、介助等が必要な対象者も増加する。		
②総合評価	2概ね達成	③総合評価の理由	介護保険給付費は年々増加傾向ではあるが、介護・支援の対象者への適切な給付、適正な要介護認定の審査に努めた。

V 今後の方向性

①成果の方向性	↑ 向上	②コストの方向性	↑ 増加
③特に重点化する事務事業	包括的支援事業に要する経費。		
④上記方向性の説明	地域包括ケアシステムの構築の中心となる地域包括支援センターの担う役割が増大していることから、職員配置や相談体制の強化を図るため予算が増加する。		